



言葉を超えるマイムの力

ケッチ！（が～まるちょば） Ketch! (GARMARJOBAT)

「みんなが笑ったのよ！ しかも同時に！」ベルギーのパフォーマンスフェスティバルに参加した時のこと。ショーの後にベルギー人のおばちゃんが興奮氣味に話しかけてくれた。「ありがとう！ あなたたちは素晴らしいわ！ 客席にはいろんな国の人があつたから何言語も入り乱れていて、隣の人と話すのも難しかったのよ。それなのに、あなたたちのショーを見て、みんなが笑ったのよ、しかも同時に！」

インターナショナルなフェスティバルだったし、ベルギーには公用語が3言語もあるから、会場内では10言語以上が使われていたと思う。だから、パフォーマーたちはベルギーの公用語ではなく、今や世界の共通言語になった英語でショーをやることが多い。でも、英語が話せない人にとってはチップンカンパンだし、英語に訳された他の言語からのジョークは、意味がわかったとしても笑えないこともある。さらに自分の言語に訳すのにどうしても時間が過ぎてしまう。そう考えると、客席の「みんな」が「同時に」笑うという状態は、かなり珍しかったはずだ。そのフェスティバルで数多くのショーを見てきたおばちゃんが興奮したのも無理のない話だ。

が～まるちょばのショーには言葉がない。視力と想像力は必要だが、見たままがすべてだから、見ていればわかる。脳内で翻訳することなく笑える。だから世界中でパフォーマンスできる。しかし、ひっかりなしに世界中から出演依頼がくる人気の秘密（手前味噌ですみません！）は、「言葉がない」ことだけではない。もっともっとすごい秘密がある！ それは、マイム（パントマイム）が持つ力だ！

が～まるちょばが目指すのは、身振り手振りで意味を伝えるジェスチーゲームのようなものではない。ジェスチャーは、口から音は発していないが言

葉の一種だと言える。が～まるちょばが心がけているマイムは、言葉を使わずに言葉以上のものを伝える表現だ。例えば、突然スーツケースが空中に止まり、動かなくなってしまうパフォーマンスがある。スーツケースが空中に浮いているように見せる技術も大事だが、それだけを演じていたらお客様には「すごいね！」としか思ってもらえない。極端に言えばお客様にとっては人ごとだ。

が～まるちょばが大切にしているのは、スーツケースが空中に止まってしまったことによって起きた主人公の心理だ。もし、みんなが歩いている時に突然スーツケースが空中に止まつたら、どう思うだろう？ 「あれ？ おかしいな。」「そんなバカな！」「どうしよう？」「急いでるのに困ったなあ。」「もっと力を入れたら動くかな？」「うわ！ おもしろい体験してるなあ！ ラッキー！」などなど、人によっていろいろな感情が生まれるはずだ。不思議だと思う感情、自分の目を疑うような感情、状況を打破するための思考、困惑、怒り、あきらめ、喜び、と絶えず心を動かしているのが人間だ。同じ人間として世界中のお客様にも、こういった心の動きは言葉を介さなくても十分に理解できるものだ。

言葉にしなくとも心に生まれる様々な感情をしっかりと演じることで、お客様に言葉以上のことが伝わり、共感が生まれる。それが笑いに、感動につながる。これがマイムの力だ！ この力を信じているからこそ「みんなが同時に笑う」一瞬が生まれるのである。

ケッチ！（が～まるちょば）

が～まるちょばは、ケッチ！とHIRO-PONによるサイレントコメディー・デュオ。1999年結成。言葉や文化を超えたパフォーマンスが高く評価され、“世界が認めたアーティスト”としてこれまでに30ヶ国を超える国々のフェスティバルなどから招待されている。日本国内でも活躍中。